

Thinkerbell Labs



企業概要

会社名	Thinkerbell Labs
設立	2016
事業分野	点字学習装置の製造
本社	バンガロール（インド）
社員数	15



事例のポイント

点字は視覚障がい者が社会とコミュニケーションを取るための重要な手段の一つであるが、点字の学習方法は、これまで、テクノロジーの進歩の恩恵を十分に受けてこなかった。同社は、世界の視覚障がい者人口のおよそ 20%を占めるインドにおいて、子供たちや若者が点字を自学自習できるようにするためのデバイス「アニー」を開発し、国内外への普及を図っている。

企業プロフィール

同社は視覚障がい者の学習を促進することをミッションとして、点字の識字率を高めるためのソリューションを開発している。

事業の中核にあるのは、視覚障がい者が、点字の読み書きやタイピングを独学で学べる世界初の点字学習デバイス「アニー」である。

同社はこのデバイスをインド国内において行政や企業と連携しながら普及させることで、視覚障がい者の社会的包摂を進めている。

背景にある社会課題

世界の視覚障がい者の人口は増え続けており、2050年までには現在の3倍になると予想されている。世界人口の増加率が年率1.16%であるのに対し、視覚障がいを持つ人々の増加率は年率3.73%である。

インドには、世界の視覚障がい者人口の20%以上が住んでいるが、その点字識字率は1%にも満たない。

点字識字率の低さの背景として指摘されている問題は以下の通りである。

- 点字の学習方法が古く、時代遅れであること。
- 点字教育の訓練を受けた教師の数が極端に不足していること。
- 教師や親が視覚障がい者のニーズに対応する能力を備えていないこと。
- 自己学習の方法が欠如していること。
- オンデマンドの学習コンテンツへのアクセスが欠如していること。

これらの理由から、視覚障がいを持つ子供は学校教育課程についていくことができず、低い点字識字率のために自己学習も進まない状況となっている。

ビジネスモデルと製品の特徴

従来の点字教育手法の非効率性や、点字教育に習熟した教師がいないことに対する解決策として、同社が開発したのが、点字学習デバイス「アニー」である。この名称は、ヘレン・ケラーの教師であるアン・サリバンにちなんでいる。

「アニー」は、視覚障がいのある子供や若者が、独学で点字を学ぶことができる自立型のデバイス

で、教師や親は、記録を通じて、学習の進捗をモニタリングすることができる。

「アニー」では点字だけではなく、音声と点字を通じて、初等教育のカリキュラムのいくつかを学習することができる。

このデバイスは自学自習の他に、教室で複数の生徒を集めた学習にも活用ことができ、その進め方やカリキュラムは「アニー・スマート・クラス」として標準化されている。

同社は、ブロックセンターや、地域障がい者リハビリテーションセンターなど、州や地区レベルのさまざまな政府機関と提携し、「アニー」及び「アニー・スマート・クラス」を展開している。

SDG ビジネスへのアプローチ

① 取り残された層のニーズに応える技術

インドにおいては点字学習の方法は何十年もの間、大きな進歩がなく、ワークブックなどの教材はあるものの、学習者、特に子供にとっては面白みがなく、継続しにくかった。またワークブックを有効に使う指導法なども普及していなかった。

これに対して「アニー」は、最新の技術を用いて、音声ガイド、点字スレート(点字を打つ器具)、学習コンテンツを組み合わせることで、子供たちがゲーム感覚で遊びながら自律的に学習を進めることを可能にした。

「アニー」では、グレード1(アルファベットおよび記号)とグレード2(省略形が加わったもの。公共に使われる点字)の学習が可能であり、ゲーム、エクササイズ、チャレンジ、ストーリーなど、楽しく学べるよう工夫されている。

英語及び、インド国内の各地域の言葉の学習ができ、オンラインに接続することによって、新しいコンテンツのダウンロードや、分析ダッシュボードによる進捗のモニタリング、テストや宿題の管理なども行うことができる。

これらの機能は、これまで点字学習に主体的に関わることが難しかった親にとっても、子供の学習進捗を理解する手助けとなっている。

② パートナーシップによる展開

同社は、学習プロセスをエコシステムとして捉え、教師、補助者、両親、政府による支援などの全てが噛み合っこそ社会的包摂が実現するという考えの下、パートナーシップによる事業拡大に重点を置いている。

「アニー」だけでは使い方や支援の仕方がわからない教師のために、クラス運営のカリキュラムである「アニー・スマート・クラス」を体系化している。

これらを最初に導入したのは、ジャールカンド州ランチャーにある政府が支援する盲学校であり、極めて高い評価を受けた。それ以来、多くの組織と提携し、盲学校やインクルーシブ・スクールへの導入を進めている。

SDGs へのインパクト

- これまでにインド、英国、アラブ首長国連邦の40を超える盲学校やインクルーシブ・スクールで「アニー・スマート・クラス」が導入され、視覚障がいを持つ子供たちの学習に役立てられている。

国際機関・ドナーとの連携

- これまで国際機関・ドナーとの協業経験はないが、インド国内ではさまざまな組織と連携しており、インディアン・エンジェル・ネットワークから投資を受けている。

